

(別紙2-1)

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27年 3月 20日

### 【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	4270700323		
法人名	株式会社 翔里		
事業所名	グループホーム翔里		
所在地	長崎県平戸市津吉町 1051 番地		
自己評価作成日	平成 27年 3月 2日	評価結果市町受理日	平成 27年 3月 31日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php</a>
--------------	---

### 【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町 3118-1
訪問調査日	平成 27年 3月 16日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

四方に広がる農道と、山に囲まれた景色の中に、以前、病院であった建物を改築してオープンした。廊下・洗面所・洗濯室・浴室などゆとりのあるスペースになっており、気分もゆったりとなる。外観は、病院の建物だったということもあり、以前冷たい感じがすると指摘を受けたこともあり、施設周り、玄関にプランタンを設置。花を季節ごとに植え替えている。施設への上り口の辺りにも花を植えたりして工夫している。掃除は、利用者様が床に寝転がられても大丈夫なくらいに、毎日床拭きを手で行っている。裏には、畑があり、季節ごとに花や、野菜を作っている。運営理念の中に「心の目」とうたっているが、利用者様の思いに少しでも近づけるよう「心の目」をもって支援している。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点 (評価機関記入)】

当ホームは外観・内装とも以前は病院であったと思わせない雰囲気であり、四方を山に囲まれ自然豊かな環境で入居者を支援されている。又、施設内は全てがバリアフリーで広々としていて、トイレも広く全てが車イス対応であり、一階浴槽には流水バスが設置してあり、入居者にも好評である。敷地内の畑では、入居者と職員と一緒に様々な野菜を栽培され、食材として使われている。入居者の家族からは、想像と違って雰囲気が良く、落ち着いているとの声もあり、入居者と職員からは笑いが絶えない明るい事業所である。

## 1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践+D10:AE403 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼時、申し送り等が終わった後運営理念を唱和し、「職場の教養」という小冊子を用いて感じたこと、思ったことなどを話し合っている。実際の業務に照らし合わせて話したりする。	理念は開設当時作られ、事業所の数か所に掲示してあり、全職員が周知している。理念の中にある「心の目」で入居者の見えない想いを汲み取りながら支援に努められている。理念を基に月毎の目標を立て、新人教育も兼ね更なる理念の共有と実践をお願いします。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流として、近隣の小学校、中学校から高齢者との交流学習の一環で慰問が毎年ある。また、2か所の保育園からの慰問や、入居者の方を招待して下さったりもある。南部地区高齢者部会の方が見学に見え、施設についての説明会なども開催した。地域のスーパーに買い物に出かけたりして地域とのつながりが継続できるようにしている。	小・中学校から慰問があり、小学校運動会に参加する事もある。運動会の様子の写真を広報誌に載せ、家族へ送り喜ばれている。又、家族が行事の写真を欲しいと希望された場合は応じられている。南部地区高齢者部会には、施設の様子や情報を提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会の会合でグループホームのことで、認知症のことについて話をさせていただき機会をいただいた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、2ヶ月に1回の開催を予定していたが、現在のところ4回の開催しか実現できていない。議題によっては、利用者様も参加していただいている。ご家族の参加者は、1名～3名程度だが、毎回声かけを行っている。スタッフも参加できる状況にはなっていない。	運営推進会議は年6回計画されているが、新たな施設の準備で今年度は5回の実施となる。行政や複数の民生委員・家族・地域住民代表者等多数の参加があり、お互いの情報・意見の交換が行われている。今後は家族会を立ち上げる予定で、推進会議へ繋げる事も検討中である。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回参加いただいている為、その時に相談させていただくことがある。施設増床に向けての相談などさせていただき、相談させていただく機会が増えた。	常にホームの状態を伝えており、今後の施設の拡大についても市と連携を取られている。運営推進会議においても相談の機会を持たれている。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員間で抑制について話し合い、理解したうえで、常に入居者様の状態と照らし合わせて工夫している。言葉による拘束などを無意識に行っていないかなど、職員間でも気を付けるようにしている。</p>	<p>家に帰りたい入居者がいる為、ドアに工夫をし、職員が確認出来るようにされている。入居者が行動したくても待ってもらう時は、その為の理由と時間の約束をして対応されている。異食の場合も粘り強い声掛けや見守りで支援されている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待について、研修会の報告など行う中で学ぶ機会を持ったが、継続して行っていない。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護、成年後見制度について施設内勉強会で学ぶ機会を持ったが継続して行う必要がある。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間をかけ説明を行っている。利用料金について、起こりうるリスク、状態が変化された場合について等は特に納得していただけるように説明し、同意を得てサービスを開始している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>アンケート調査は行っていないが、ご家族とのコミュニケーションを十分取り、ご家族が言えるような関係作りに努めている。面会時や日頃から利用者様のことについて情報提供を行って、家族のかかわりが途絶えないよう心掛けている。</p>	<p>意見箱の設置はないが、月一回来られる家族へは入居者の状況・願望について話をされ、遠方の家族へは毎月の手紙や電話で連絡される。クリスマスや敬老会の時には家族へ参加を呼びかけ、ホームでの様子を見てもらう事で安心感へも繋がっている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>休憩時間などなるべくコミュニケーションを図るようにしている。また、ミーティングなどでも意見を出してもらえるように努めている。また、現在運営職員会議を月2回開催しているが、その中で意見や提案が出しやすい雰囲気づくりに努めている。</p>	<p>職員からの意見・提案により、居室入口にフェルトで名前のプレートを作ったり、ひな祭りの飾りを入居者と一緒に貼り絵で作ったり、好きな場所に展示をしたりと職員の入居者に対する優しさが感じられた。</p>	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>資格、経験年数など考慮して給与水準、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件などの整備に努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>全職員が年1回は施設外研修に参加できるように計画していたが、全員参加することはできなかった。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>同業者との交流を兼ねて研修会を開催する予定にはしている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>他の施設でなじめなかった入居者様が、当施設では徐々に慣れてこられたケースがある。信頼関係を築くことができるように本人の話に耳を傾けるようにしている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>面会時、できる限り本人の状況を、面談にてお伝えすることもある。また、変化があった場合は、電話にてその都度お伝えしている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居相談時、本人やご家族の思い、状況を確認し、その時必要としている支援を見極めることができるよう観察、情報収集している。</p>		

18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の思いや、悲しみ不安喜びなどを知ることができるよう努め、共に支え合えるような関係作りに留意している。食事の準備、野菜作りなどの時は、これまでの経験から教えていただくこともある。		
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子や職員の思いを伝え、ご家族の方が不安に思っておられることはないのか？など、つかめるよう努めている。ご家族には、情報がバラバラにならないように管理者、主任からの情報提供を行っている。		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事の情報があれば、地域に出掛けて行ったりすることもある。運営推進会議に参加していただいている地域の方が馴染みのある利用者様と交流して帰られることもある。また、面会時などは、ゆっくりしていただけるようお茶や、お菓子などをお出ししてゆっくり過ごしていただけるよう心掛けています。	地域の行事には、参加できる入居者は参加されている。家族や知人の面会時には、フロアや居室で会話を楽しまれている。家族の中にはお弁当・お茶持参で訪問される方もおり、共にゆっくりと過ごされている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聴く機会をつくったり、相談をゆっくり聴いたり、気の合う者同士で過ごせる場面が自然と出来たり、時には、利用者様同士の関係が上手くいくように職員が調整役となって支援することもある。また、利用者様がストレスを抱えることが少なくなるようにも注意深く見守り支援している。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、利用者様、ご家族の方が困らないように相談していただけることを話している。		
<b>III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃のかかわりの中で声を掛け、把握に努めるようにしている。意思疎通の困難な利用者様については、ご家族、関係者などから情報を得ながら本人の意向に近づけるようにしている。	身体的理由により退去される入居者には、家族の方へ特別養護老人ホームの情報等を提供されている。字が得意な方には自由に白板に書いていただいたり、料理が得意な方には食事の準備を手伝ってもらい、入居者が抱えている不安を和らげるよう工夫しながら支援されている。	

24	<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前、紹介していただいた事業所からの情報を収集し、自宅に訪問し利用者様、ご家族の方から生活歴、ライフスタイル、個性など情報収集しご本人様の全体像が描けるように努めている。入居後も、折に触れ、ご本人様、ご家族の方へのどのような生活をされていたのかを聴いている。</p>		
25	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>一人ひとりの一日の暮らし方や生活リズムを理解すると共に、心理面やご本人様の出来る力、わかる力に注目し、利用者様の全体像の把握に努めている。</p>		
26	<p>10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>介護記録に介護計画の反映がなされていない。現在も、介護計画についての話し合いなどは行いが、実践されている記載が分かるように記載されていない。担当制については、まだ十分行っていない。個人の介護計画を職員全員がいつでもすぐに見ることができるようになっていない。</p>	<p>家族・職員で話をしながら介護計画を作成されている。日々の介護記録に色分けで記入する工夫がされていた。入居者担当を決め取組まれたが担当制の理解が不十分な為、活かされていない。現在ケアプラン・介護記録のより良い記載方法を検討中である。</p>	<p>介護計画との関連性が分り難い介護記録となっているので、日々の気づきや詳細について分析しやすい記載が望ましい。担当制についても役割や利点を理解した上で、他職員へも分りやすい記入方法を工夫すると共に、介護計画（目標）が反映される記録となるよう期待します。</p>
27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別のファイルを用意し、食事・排泄・バイタル・内服・身体状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソードなども記録しその場に出動していない職員も状況が描けるようにしている。勤務開始前には、記録等を確認し最新情報を把握した上で業務につくことを徹底している。</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ご本人様、ご家族の状況に応じて、通院や外出時など必要な支援は柔軟に対応している。</p>		
29	<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>利用者様が安心して地域での暮らしを続けられるよう、民生委員や消防、老人会の方と意見交換する機会を設けている。</p>		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様やご家族の方が希望されるかかりつけ医となっている。受診の経過、現在の受診の希望等を把握して受診の支援が出来ている。また、ご家族の協力も得られている。	現在はホームの協力医への受診であり、管理者が看護師が受診支援し、都度家族へ電話で報告をされている。家族が付き添って受診する事もあり、入居者は家族に会える事を喜ばれている。入居者の状況変化時は随時病院へ相談され、家族の安心感も得られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を各ユニットに配置しており、常に利用者様の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいない時間帯は、介護職員の記録を基に連携をとっている。また、緊急事態には、看護職員に連絡を取り指示を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者様への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、できる限りダメージを極力防ぐためその後も医療機関と連携を取っている。また、ご家族と情報交換しながら回復状況でスムーズな退院支援に結びつけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の事業所の方針について入居相談段階から説明し利用後も状態の変化があるごとに、ご家族の気持ちの変化やご本人様の思いに注意を払い、支援につなげている。安心して検討ができるように情報提供を行っている。たん吸引の器具は必要ではないかと考え購入を検討。	スタッフの確保が難しい事もあり看取りは行っていないが、別施設への異動の説明を行い、機会があれば看取りの研修にも参加している。タン吸引の購入の予定があり、研修・実技の検討もされている。緊急時対応マニュアルがあり、年一回のAEDの研修も受け緊急時へ備えるよう努められている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が、消防署等の協力を得て、年に1回の応急手当の勉強会を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域を巻き込んだ避難訓練は行っていないが、避難後の安全確保などに協力していただけるとの話を受けているが、実際、地域の方も協力していただいている避難訓練は実施していない。備蓄については、実施まで至っていない。ヘルメットなどの購入も検討中。	避難訓練は年に2回実施している。運営推進会議メンバーの民生委員や区長の方から「何か出来る事があるなら」との積極的な意見もあり、次回の訓練には参加して頂く予定である。災害の危険性は周知しているが、備蓄品の準備は検討中である。	備蓄品の準備と一覧表(消費期限記載)を作成し自主点検を定期的に行う事を促します。年2回の避難訓練に加え職員へ周知・習慣づける為に自主訓練(点検業者に参加して頂く等)の実施と、地域制を考慮し避難所となった時も想定した訓練を実施される事を期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的には出来ているが、勉強会やミーティング等の折に、職員意識向上を図ると共に日々のかかわり方を点検し、利用者様の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。職員相互で点検しあいながらミーティングの場で確認と改善を行っている。	月刊誌の小冊子「職場の教養」で接遇マナーについて勉強し、入居者の言葉・態度を否定しない支援をされている。自分で服を選んで着られる入居者へは、職員が汚れていないか確認をしさりげないアドバイスをされている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の状態に合わせて声かけを行い、意思表示が困難な方には、表情を読み取ったり、身振り手振りで本人が決める場面を作っている。(飲みたいもの、食べたいもの、やりたいこと等)。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方にはならないよう努めている。その日をどう過ごしたいのか自ら表現する方は少ないが夜間など職員とココロゆくまでお茶を飲みながらおしゃべりを楽しむなど、利用者様のペースに沿って見守りながら一緒に楽しんでいる。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面所にくしを置いていつでも使用できるように準備している。朝の着替えは、ご本人様の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要ときに手伝っている。自己決定が困難な利用者様には、職員と一緒に考えて、本人の気持ちに沿って支援するように心がけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立は、利用者様と相談したり、問いかけたりしながら決めるようにしている。また、買い物、調理(もやしやの芽つき、豆のすじとり、つわむき、ごぼうそぎ等)、片付けなども利用者様と共に行い、職員(献食者)も一緒に同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう、雰囲気作りも大切にしている。	入所時の嗜好調査を基に食物アレルギーや嫌いな食べ物がある方へは代替食で対応されている。食事は入居者の希望を取り入れながらその日にメニューを決め、ホーム内の畑で収穫した野菜も食卓に上がっている。入居者・検食する職員と一緒に食事をし、準備・配膳・下膳・お盆拭きも出来る人は手伝い、自立を促す支援に努められている。

41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、嗜好なども取り入れながらバランスを考えたものになっている。水分については、食事、おやつ以外の摂取時は、介護記録へ記載している。食べられないものがある場合は、別メニューで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きは声かけを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前は、義歯の洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間や習慣を把握し、尿意の表現が困難な利用者様にも時間を見計らって、また、ご本人様の行動変化などで誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。入居時、リハビリパンツを使用していた方も現在は、布パンツに尿とりパットになられた方もいらっしゃる。	基本的にはトイレでの排泄を心掛けトイレ誘導を行っている。失敗時はボトルシャワー又はシャワー浴で対応されている。トイレ拒否の入居者には時間をずらしたり、強要せず見守り本人の意思を尊重するように支援されている。入所時リハビリパンツの方がすぐに普通のパンツ（パット使用）に改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容の工夫、乳製品を取り入れ自然に排便できるように検討している。また、体操などを取り入れている。下剤については、利用者様の状況によって必要最小限調整しながら使用することもある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日、時間帯については、お本人様の生活習慣に合わせて行うことはできていない。入浴を拒む人に対しては、言葉かけや入浴の順番など対応の工夫をしている。	基本二日に一回の入浴支援であるが、毎日入浴する入居者もいる。入浴拒否の入居者には声掛けを変えたり、時間や順番をずらす等対応されている。自家製のEM菌の入浴剤もあり、皮膚疾患の入居者には薬を準備されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、一人ひとりの体調や表情などを考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援している。就寝前に、水分補給（暖かい飲み物など）なども行っている。		

47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用量が変化したり、ご本人様の状態に変化が見られる時は、いつもよりも詳細な記録をとるようにし、看護師や医療機関との連携を取るようにしている。各個人様の服薬内容の理解、病状について等、再認識しなおす機会を設ける。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の得意分野で力を発揮していただけるよう、お願いできそうな仕事を頼み（掃除、洗濯物たたみ、食事の準備、配膳、片付け、縫い物など）、感謝の言葉を伝えるようにしている。ご本人様の役割、楽しみなどご家族からの情報も得ながら行っている。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、ご本人様の気分・希望に応じて常に行うことは出来ないが、季節を肌で感じてもらえるように外出行事などは、取り入れて、ご本人様の希望なども聴き、取り入れるように努めている。また、ご家族の協力を得ながら外出、外泊支援を行っている。	敷地内に畑があり、作業が可能な入居者の楽しみになっている。クリスマスチャンの入居者がいた時は神父の訪問もあった。散髪は家族の方が馴染みの店へ連れて行かれたり、ホームへ訪問してもらう事もある。盆・正月等には家族と共に過ごされるように提案もされ、本人の願望に沿うような支援に努められている。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力を得て、小額のお金を持ってもらえる方もいらっしゃる。ご家族からお小遣いを預かり、事業所が管理している方でも、外出時などには、お金を持っていただき自ら支払っていただいたりしている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて日常的に電話をかける支援を行っている。手紙や贈り物が届いた場合は、お礼の電話をかけられないか尋ねたりしている。		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わっていただけのような雛人形を飾ったり、七夕、クリスマスなどそれぞれ工夫している。冷暖房なども季節の自然の風を取り入れるようにしており、音や光の刺激などに配慮している。玄関先に、季節の花を飾ったりしている。	ホーム内は全てバリアフリーで、壁には職員のアイディアで入居者の貼り絵の作品や、ぬり絵等が飾ってある。食後やそれ以外にもチョットした汚れも気づくように職員がモップでなく雑巾で床を拭いており、常に清潔に保たれている。	

53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホール、フロア、談話室、食堂など馴染みの利用者様同士でくつろげるスペースをつくっている。		
54	20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの椅子、棚などそばに置ける人もいるが、身の回りの物品を置くことが困難な利用者様もいらっしゃる。状況によってご家族の方と話し合いながら行っている。	ベッドとクローゼットはホームで用意され、入居者は馴染みの物や家族の写真を持ち込まれている。亡くなられた方の写真を遺影として、水を供える方もおり、入居者の思いを大事に、安心・安全に配慮されている様子が窺えた。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で居室に行けるように目印など工夫している。ベットについては、安全に配慮しながら利用者様にあっているのか見直したりして対応している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

## 1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップ に向けて期待 したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼時、申し送り等が終わった後運営理念を唱和し、「職場の教養」という小冊子を用いて感じたこと、思ったことなどを話し合っている。実際の業務に照らし合わせて話したりする。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流として、近隣の小学校、中学校から高齢者との交流学習の一環で慰問が毎年ある。また、2か所の保育園からの慰問や、入居者の方を招待して下さったりもある。南部地区高齢者部会の方が見学に見え、施設についての説明会なども開催した。地域のスーパーに買い物に出かけたりして地域とのつながりが継続できるようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会の会合でグループホームのこと、認知症のことについて話をさせていただく機会をいただいた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、2ヶ月に1回の開催を予定していたが、現在のところ4回の開催しか実現できていない。議題によっては、利用者様も参加していただいている。ご家族の参加者は、1名～3名程度だが、毎回声かけを行っている。スタッフも参加できる状況にはなっていない。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回参加いただいている為、その時に相談させていただくことがある。施設増床に向けての相談などさせていただき、相談させていただく機会が増えた。		

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	職員間で抑制について話し合い、理解したうえで、常に入居者様の状態と照らし合わせて工夫している。言葉による拘束などを無意識に行っていないかなど、職員間でも気を付けるようにしている。		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	高齢者虐待について、研修会の報告など行う中で学ぶ機会を持ったが、継続して行っていない。		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	権利擁護、成年後見制度について施設内勉強会で学ぶ機会を持ったが継続して行う必要がある。		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	時間をかけ説明を行っている。利用料金について、起こりうるリスク、状態が変化された場合について等は特に納得していただけるように説明し、同意を得てサービスを開始している。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	アンケート調査は行っていないが、ご家族とのコミュニケーションを十分取り、ご家族が言えるような関係作りに努めている。面会時や日頃から利用者様のことについて情報提供を行ってご家族のかかわりが途絶えないよう心掛けている。		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	休憩時間などなるべくコミュニケーションを図るようにしている。また、ミーティングなどでも意見を出してもらえるように努めている。また、現在運営職員会議を月2回開催しているが、その中で意見や提案が出しやすい雰囲気づくりに努めている。		

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>資格、経験年数など考慮して給与水準、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件などの整備に努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>全職員が年1回は施設外研修に参加できるよう計画していたが、全員参加することはできなかった。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>同業者との交流を兼ねて研修会を開催する予定にはしている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>他の施設でなじめなかった入居者様が、当施設では徐々に慣れてこられたケースがある。信頼関係を築くことができるように本人の話に耳を傾けるようにしている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>面会時、できる限り本人の状況を、面談にてお伝えすることもある。また、変化があった場合は、電話にてその都度お伝えしている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居相談時、本人やご家族の思い、状況を確認し、その時必要としている支援を見極めることができるよう観察、情報収集している。</p>		

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の思いや、悲しみ不安喜びなどを知ることができるよう努め、共に支え合えるような関係作りに留意している。食事の準備、野菜作りなどの時は、これまでの経験から教えていただくこともある。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子や職員の思いを伝え、ご家族の方が不安に思っておられることはないのか？など、つかめるよう努めている。ご家族には、情報がバラバラにならないように管理者、主任からの情報提供を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	地域行事の情報があれば、地域に出掛けて行ったりすることもある。運営推進会議に参加していただいている地域の方が馴染みのある利用者様と交流して帰られることもある。また、面会時などは、ゆっくりしていただけるようお茶や、お菓子などをお出ししてゆっくり過ごしていただけるよう心掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聴く機会をつくったり、相談をゆっくり聴いたり、気の合う者同士で過ごせる場面が自然と出来たり、時には、利用者様同士の関係が上手くいくように職員が調整役となって支援することもある。また、利用者様がストレスを抱えることが少なくなるようにも注意深く見守り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、利用者様、ご家族の方が困らないように相談していただけることを話している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃のかかわりの中で声を掛け、把握に努めるようにしている。意思疎通の困難な利用者様については、ご家族、関係者などから情報を得ながら本人の意向に近づけるようにしている。		

24	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前、紹介していただいた事業所からの情報を収集し、自宅に訪問し利用者様、ご家族の方から生活歴、ライフスタイル、個性など情報収集しご本人様の全体像が描けるように努めている。入居後も、折に触れ、ご本人様、ご家族の方にごどのような生活をされていたのかを聴いている。</p>		
25	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>一人ひとりの一日の暮らし方や生活リズムを理解すると共に、心理面やご本人様の出来る力、わかる力に注目し、利用者様の全体像の把握に努めている。</p>		
26	<p>10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>介護記録に介護計画の反映がなされていない。現在も介護計画についての話し合いなどは行うが、実践されている記載が分かるように記載されていない。担当制については、まだ十分行っていない。個人の介護計画を職員全員がいつでもすぐに見ることができるようになっていない。</p>		
27	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別のファイルを用意し、食事・排泄・バイタル・内服・身体状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソードなども記録しその場に出勤していない職員も状況が描けるようにしている。勤務開始前には、記録等を確認し最新情報を把握した上で業務につくことを徹底している。</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ご本人様、ご家族の状況に応じて、通院や外出時など必要な支援は柔軟に対応している。</p>		
29	<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、民生委員や消防、老人会の方と意見交換する機会を設けている。</p>		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様やご家族の方が希望されるかかりつけ医となっている。受診の経過、現在の受診の希望等を把握して受診の支援が出来る。また、ご家族の協力も得られている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を各ユニットに配置しており、常に利用者様の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいない時間帯は、介護職員の記録を基に連携をとっている。また、緊急事態には、看護職員に連絡を取り指示を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者様への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、できる限りダメージを極力防ぐためその後も医療機関と連携を取っている。また、ご家族と情報交換しながら回復状況でスムーズな退院支援に結びつけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の事業所の方針について入居相談段階から説明し利用後も状態の変化があるごとに、ご家族の気持ちの変化やご本人様の思いに注意を払い、支援につなげている。安心して検討ができるように情報提供を行っている。たん吸引の器具は必要ではないかと考え購入を検討。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が、消防署等の協力を得て、年に1回の応急手当の勉強会を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域を巻き込んだ避難訓練は行っていないが、避難後の安全確保などに協力していただけたとの話を頂いているが、実際、地域の方も協力していただいていた避難訓練は実施していない。備蓄については、実施まで至っていない。ヘルメットなどの購入も検討中。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的には出来ているが、勉強会やミーティング等の折に、職員の意識向上を図ると共に日々のかかわり方を点検し、利用者様の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。職員相互で点検しあいながらミーティングの場で確認と改善を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の状態に合わせて声かけを行い、意思表示が困難な方には、表情を読み取ったり、身振り手振りで本人が決める場面を作っている。(飲みたいもの、食べたいもの、やりたいこと等)。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方にはならないよう努めている。その日をどう過ごしたいのか自ら表現する方は少ないが夜間など職員とココロゆくまでお茶を飲みながらおしゃべりを楽しむなど、利用者様のペースに沿って見守りながら一緒に楽しんでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面所にくしを置いていつでも使用できるように準備している。朝の着替えは、ご本人様の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要などに手伝っている。自己決定が困難な利用者様には、職員と一緒に考えて、本人の気持ちに沿って支援するように心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立は、利用者様と相談したり、問いかけたりしながら決めるようにしている。また、買い物、調理(もやしの芽つき、豆のすじとり、つわむき、ごぼうそぎ等)、片付けなども利用者様と共に行い、職員(献食者)も一緒に同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう、雰囲気作りも大切にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、嗜好なども取り入れながらバランスを考えたものになっている。水分については、食事、おやつ以外の摂取時は、介護記録へ記載している。食べられないものがある場合は、別メニューで対応している。		

42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きは声かけを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前は、義歯の洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間や習慣を把握し、尿意の表現が困難な利用者様にも時間を見計らって、また、ご本人様の行動変化などで誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。入居時、リハビリパンツを使用していた方も現在は、布パンツに尿とりパットになられた方もいらっしゃる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容の工夫、乳製品を取り入れ自然に排便できるように検討している。また、体操などを取り入れている。下剤については、利用者様の状況によって必要最小限調整しながら使用することもある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日、時間帯については、ご本人様の生活習慣に合わせて行うことはできていない。入浴を拒む人に対しては、言葉かけや入浴の順番など対応の工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、一人ひとりの体調や表情などを考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援している。就寝前に、水分補給（暖かい飲み物など）なども行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用量が変化したり、ご本人様の状態に変化が見られる時は、いつもよりも詳細な記録をとるようにし、看護師や医療機関との連携を取るようになっている。各個人々の服薬内容の理解、病状について等、再認識しなおす機会を設ける。		

48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>ご本人様の得意分野で力を発揮していただけるようお願いできそうな仕事を頼み（掃除、洗濯物たたみ、食事の準備、配膳、片付け、縫い物など）、感謝の言葉を伝えるようにしている。ご本人様の役割、楽しみなどご家族からの情報も得ながら行っている。</p>		
49	<p>18 ○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天気、ご本人様の気分・希望に応じて常に行うことは出来ていないが、季節を肌で感じてもらえるように外出行事などは、取り入れて、本人様の希望なども聴き、取り入れるように努めている。また、ご家族の協力を得ながら外出、外泊支援を行っている。</p>		
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族の協力を得て、小額のお金を持っておられる方もいらっしゃる。ご家族からお小遣いを預かり、事業所が管理している方でも、外出時などには、お金を持っていただき自ら支払っていただいたりしている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>利用者様の希望に応じて日常的に電話をかける支援を行っている。手紙や贈り物が届いた場合は、お礼の電話をかけられないか尋ねたりしている。</p>		
52	<p>19 ○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感を味わっていただけるよう雛人形を飾ったり、七夕、クリスマスなどそれぞれ工夫している。冷暖房なども季節の自然の風を取り入れるようにしており、音や光の刺激などに配慮している。玄関先に、季節の花を飾ったりしている。</p>		
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関ホール、フロア、談話室、食堂など馴染みの利用者様同士でくつろげるスペースをつくっている。</p>		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの椅子、棚などそばに置ける人もいますが、身の回りの物品を置くことが困難な利用者様もいらっしゃる。状況によってご家族の方と話し合いながら行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で居室に行けるように目印など工夫している。ベットについては、安全に配慮しながら利用者様にあっているのか見直したりして対応している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない